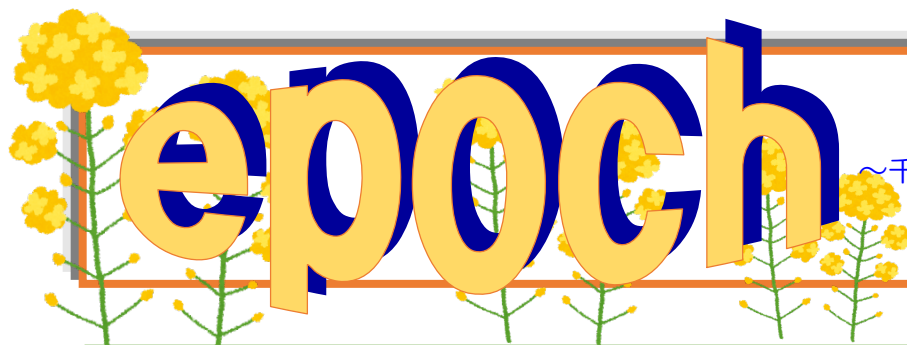




エポック No133 号

～千代田区生涯学習推進委員会議により～

令和 7 年(2025)年 2 月発行



第 1 5 期第 3 回千代田区生涯学習推進委員会議 概要報告

11月28日、第3回千代田区生涯学習推進委員会議が開催されました。

第 2 回会議では、今期テーマ『千代田区における住民交流の促進に生涯学習が果たす役割』について、会長から3つの論点が提示されました。

今回の会議では、委員が関わっている活動や事業、区内で行われている活動に関するアンケートをもとに意見交換を行いました。以下、概要をお伝えいたします。

今期テーマ

「千代田区における住民交流の促進に資する生涯学習の役割

《副題》—長期居住者としての高齢者と短期居住者としての若年者に焦点を当てて—

3つの論点

①共生社会の実現

障害者、外国人等を含めた世代間・多文化・多民族間の交流を通して、地域コミュニティの維持・活性化を千代田区としてどう進めていくのか。

②人材の育成と施設

地域コミュニティの維持・活性化を視野に入れた社会教育人材の養成・講習に向けて社会教育・生涯学習施設の提供を含めて、千代田区としてどのような役割が担えるか。

③世代間交流

高齢者を若者のメンターや伴走支援者として、千代田区の世代間交流を進める生涯学習推進の担い手として活用できないか。

アンケートをもとに委員による意見交換

第3回会議では、委員のみなさんが関わっている活動や事業、区内で行われている活動に関する情報についてアンケートを依頼し、その内容に基づき意見交換を行いました。

①自身で関わったり、知っている生涯学習活動や事業はありますか	②その活動や事業の良い点、区民への影響	③その活動や事業が抱えている課題
昌平小学校コミュニティスクール	昌平小の人たちを巻き込み、もっと密着していこうとしている。住民同士は接点が多い。 昌平音楽祭は27回目。固定客もあり、小中学校保護者の参加が多い。もともと区立小学校の場所であり区立中学から来ていただいている点では区民にも1つのイベントとして認知されている。	昌平小がある秋葉原は観光客も含めて外国人も多い。障害のある方もコミュニティに参加できるアイデア、もっとつながれる余地がある。具体策はまだないが、人はいる。可能性はある。しかし閉じてしまっている。誰でも、どんな団体も参加できる場所とはなっていない。どうしてもよく見る団体に声をかけてしまう。イベントがあるなら参加しようか、という方向に持っていきたいが、アピールが難しい。

①自身で関わったり、知っている生涯学習活動や事業はありますか	②その活動や事業の良い点、区民への影響	③その活動や事業が抱えている課題
地域学校協働活動 地域活動アプリ『polyfit』 自分ができること 経験を登録/検索	地域力が強いところや、中心者が継続的にいるところは非常に盛んだが、そうではないところはなかなか進んでいない。学校で盛り上げていきたいと思いますというのはなかなか難しい。 本校はPTA、保護者の利用が中心で、地域の方たちの知識や経験、技能を登録し地域に生かすためのアピールがあまりない。紐づけなど区で積極的に打ち出し、人材のデジタル登録システムを作れば活動の基盤ができるのではないかな。	誰が担うか。教員の働き方改革の問題。昔から地域コミュニティの中心としての学校はあり、学校を中心に子どもたちを経て家庭、地域へと広げていく拠点としては非常によいと思うが、活動を広げていく上で中心者、運営やマネジメントできる方が専門的にいるかどうか、今後の課題ではないかな。 アプリはあっても、周知ができていない。無償のボランティアは継続的に関わってくれる方が少ない。有償・デジタル応募に対してお支払いもデジタルでと、うまく整備できると基盤として整うのではないかな。
私立女子校。吹奏楽と人形劇のクラブが区内保育園と交流	参加した生徒は非常にやりがいを感じていた。きっかけをつかんでいけば、生徒たち、中高校生が、総合的な視野という、大きな勉強の機会にはなるだろう。	当校は登校90分圏内の生徒が集まっており、区内保育園もまたいろいろな地域から来ており、区内、近所とは限らないという点。
町会、地域団体でのイベント、防災訓練	イベント参加のために施設の4階に上がり、エレベーターに乗って、という環境はハードルが高い。最終的によく知っている人しか来ていない。一般参加しやすい場所は、表から見えて人が歩く『道路』ではないかな。	道路使用許可を警察署で取るのはなかなかハードルが高い。かつて秋葉原に歩行者天国があり、私自身も団体でバザーをやったが、人通りが存在する場所の道路を、申請しやすく条件を緩和できないか。地域行事の公益性、気軽に参加してみようという気持ちになれるのではないかな。
千代田区文化芸術協会	音楽は地域や障害の有無、世代、民族などを超えて皆が経験して楽しめる。 2004年「ちよだの杜少年少女合唱団」を旗揚げ。千代田区中の区立小中学校の生徒、一部私立と幼稚園児が参加した。区立学校は共通の行事が結構あり経験の共有ができる。当会は麹町、神田という分け隔てなく千代田区というキーワードで活動しているのが大きなメリット。その視点でいろいろな事業を企画し、区民に還元できるのではないかな。	①事業資金。皆さんに還元するには、会費だけでは難しい。 ②会場。区主催の発表会場も民間施設を借りている状況。音楽など発表系の団体は区内に多い。練習可能なコミュニティスクール、学習館などは区内に点在しているが、どの団体も練習したら発表したいものである。民間施設は費用がかかり、他区施設を使用している。区内に適した施設があれば区民招待も考えられる。小学校の連合音楽会ができるレベルのホールが1つあるとよい。 ③千代田区は地理的に皇居が真ん中にあり移動しづらい。日比谷図書文化館は神田と麹町からもコミュニティバスが通っていない。近隣の在勤者は参加できるが区民がイベントに参加しづらい。区内を気軽に回遊できれば活性化が図れるのではないかな。

①自身で関わったり、知っている生涯学習活動や事業はありますか	②その活動や事業の良い点、区民への影響	③その活動や事業が抱えている課題
ボーイスカウト	よりよき社会人を育成する活動の中で、メンバーが町会活動も関わり青年部長や区内イベントの中心者になっていることがある。地域行事に関わる人の中にはボーイスカウトのメンバーが結構いる。家庭・職場・地域や仲間、全ての人間関係の中、自分がどう必要とされるか、今自分は何をしたらよいかと考え、その役割を担っていく。	純粋に1点、人材育成するための人材の勧誘。子ども世帯が中心のため学校、地域の学校行事への協力。こども園、学童の行事に参加、協力する代わりに宣伝をさせてもらうなど行っている。 組織拡張に協力する代わりに、ウィンウィンの関係もあるのではないかと。参加する人が増えていくためには宣伝活動に対して、主体たる組織が協力する。お互いの協力関係が必要なのではないかと。
スポーツ推進委員	スポーツを通じた地域住民の交流の活性化、健康的な生活の手助けになっている。特に区民体育大会は区内では例を見ない規模。審判には大学生、今年は国土館大学の学生がサポーターとして参加、世代間交流にもつながる。地域に関わる大切さに気づくことが今後の地域交流活性化に重要。	若い世代のなり手が少ない。大学生が委員になったこともあったが社会人になると兼業が認められなく退任。働き盛りの世代のなり手確保が困難。 体育大会は町会加入者同士の地域対抗のため町会未加入の方が参加しづらい。ただ近年は誰でも参加可能な競技を設け、居住地域のカラーのリストバンドを未加入の方に配り、地域に親近感を持ってもらう工夫をしている。今後もさらに交流を深める対策を続けたい。
千代田区旧小学校校歌保存研究会 YouTube『ブラヒロシ』 SNS『ちよだびいき』	旧校歌、廃校になった場所をめぐりボーカロイドが歌うなど千代田区ならではの歴史を知る。千代田区の魅力をいろいろな目線で共有、昔から住む人の知識や経験や思いを知り千代田区をより好きになるきっかけとなる。	仕事があり活動する時間がない。拡大し有名になりたいが印刷や広報に費用がかかる。

④区内には3つの論点に関連して様々な団体や事例があります。今後、生涯学習推進委員でヒアリングの機会を予定したいと思います。現時点で思い当たる組織や団体はありますか

千代田区文化芸術協会 ●九段生涯学習館登録団体、自主活動グループ(文化、国際交流、異文化研究など)
千代田区スポーツ推進委員 ●地域コミュニティの土台となる町会に共生社会の実現や対応について伺いたい。
(地域ごとに異なる特色がある可能性)
地域コミュニティ、SNS 活動 ●町会長、町会の代表者に地域の特色や歴史、今後についてインタビュー
●区役所関連部署、社会福祉協議会
●大使館、千代田キャンパスコンソ、千代田区立障害者福祉センターえみふる など



【意見交換】

●生涯学習の役割を考えるという点で、共生社会の実現と人材の育成施設、世代間の交流、この3つの観点は改めて基本的に重要なものと確認した。その上で千代田区を考えたとき、希望的な部分と困難な部分の両面あり、希望的な部分もなかなか難しい。どのような形で提言としてまとめていくかが面白みでもある。区が持つさまざまな、既に動いている部分も確認しつつ大きな提言に持っていけるとよいのではないかと。

- SNS を発信する委員は、昔ながらのおじいちゃんおばあちゃんが知る千代田区に関する面白いことなどを、若い方たち、たとえ数年しか千代田区にいないとしても『面白い』と感じてくれたらとの思いがあり、千代田区が面白いからこの地域に住み続けようと考えていたとのこと。そういうところができれば若い人も千代田区に住み続けるきっかけになるのではないかと。
- 地域コミュニティの土台の1つである町会から、共生社会の実現をめざす対応や考えについて伺いたい。地域ごとの特色でそれぞれ対応が異なってくる可能性がある。



今後の進め方について

会議だけでなく、生涯学習推進委員で区の所管課や施設等にヒアリングすることで議論を深めていきます。詳細は事務局で調整します。次回第4回生涯学習推進委員会会議は2月25日開催です。



生涯学習と「絆」

安田 郁子



千代田区では毎年10月～11月に「文化芸術の秋フェスティバル」を開催しています。今までに45回開催され、もうすぐ半世紀を迎えます。かつて区民文化祭といわれていたこのフェスティバルは実行委員会形式の四部門(オーケストラ・コーラス・作品展・芸能のつどい)と「囲碁・将棋大会」から成り、私はコーラスの実行委員を毎年務めています。

約100の団体がこのフェスティバルに出演・出展しており、その多くが指導者の先生のもとに長年活動が続けています。PTAの仲間と始めたサークル、区民自主サークル活動をきっかけにできたグループと多種多様。地域の繋がりやの団体もありますが、活動をきっかけに集まったメンバーは練習終わりに盃を重ねくだらない話題にみんなで笑い合い、合宿で寝食を共にし、家族以上の付き合いをしているケースも少なくありません。

私もこのご縁の中で生涯にわたって付き合える友に出会うことができました。指導をしている「ちよだの杜少年少女合唱団」は千代田区の子どもたちに本格的な合唱活動という目標をもち、生涯学習を通じて知り合ったプロ・アマの楽友と平成16年(2004年)7月に創団しました。団員たちは、区内の学校に通っているという共通点で学校や学年を越えた大の仲よし集団です。卒団してブランクがあっても会えば何時間も話が尽きないし、年の離れた現団員も自分たちの仲間としてすぐに受け入れる寛容さを持ち合わせています。

「生涯学習の絆」これに勝るものはないと思います！皆さんもこの素敵なお縁に出会ってみませんか？